

令和8年6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

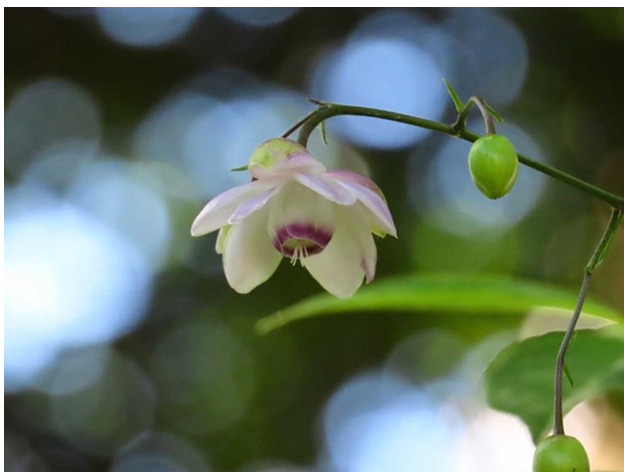
御岳山レンゲショウマ群生地とコサメビタキ

御岳山ケーブルカー御岳山駅(標高 831m)から徒歩1分の富士峰園地に、国内有数のレンゲショウマの群生地があります。標高 883m 付近にある産安社から標高差約 50mの斜面に遊歩道が広がっています。

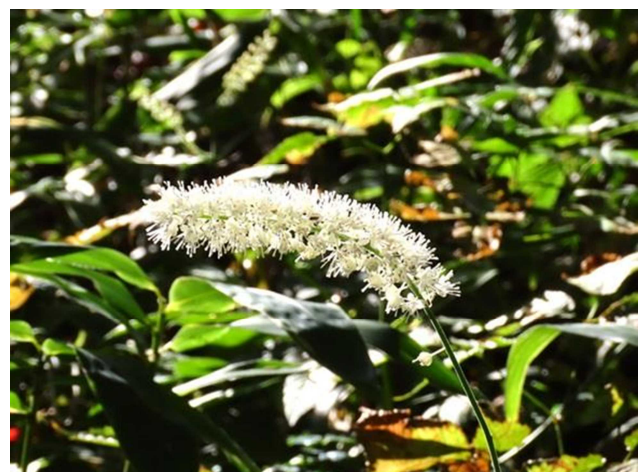
レンゲショウマは、8月頃に咲くキンポウゲ科レンゲショウマ属の多年草で、太平洋側の福島県～奈良県に分布し、山地の落葉広葉樹林を好みます。東京都西多摩では絶滅危惧Ⅱ類、南多摩の山地では絶滅危惧ⅠA類に分類される希少植物です。生存を脅かす要因として二ホンジカの食害があります。群生地はシカ柵などで覆われ守られています。

レンゲショウマの名前の由来は、水にさらして山菜として食するサラシナショウマ(更科升麻)に葉が似ていて、花がハスの花に似ているので、レンゲショウマ(蓮華升麻)の名がつけられました。レンゲショウマは有毒植物なので食用にはなりません。レンゲショウマ群生地の中によく似ているサラシナショウマも多く生息していますので、葉を見比べてみてください。白いブラシ状の花が見られるのは9月に入ってからですが、レンゲショウマの開花中には小さな蕾をたくさんつけています。

群生地には、モミ、イタヤカエデなどの高木があります。その中にミズナラの高木もありましたが、カシノナガキクイムシによる伝染病で枯れる「ナラ枯れ」が発生し、数本が伐採されました。高木が伐採されると多くの陽が入り、群生地の気温が上昇してしまいます。近年の高温傾向もあり、冷涼な環境を好むレンゲショウマなどに大きく影響してくることが懸念されます。



レンゲショウマ



サラシナショウマ

8月上旬、群生地の中で飛び回るコサメビタキがいます。巣立った幼鳥も混じり高木の梢でエサを探します。コサメビタキは体長約13cmのヒタキ科に属する夏鳥です。日本で繁殖をして冬期は東南アジアなどに渡ります。西多摩、南多摩、北多摩では、絶滅危惧Ⅱ類に分類されます。1970年～1990年代に急減しましたが、近年増加の傾向があります。樹木が大きくなったことで回復している可能性があるようです。



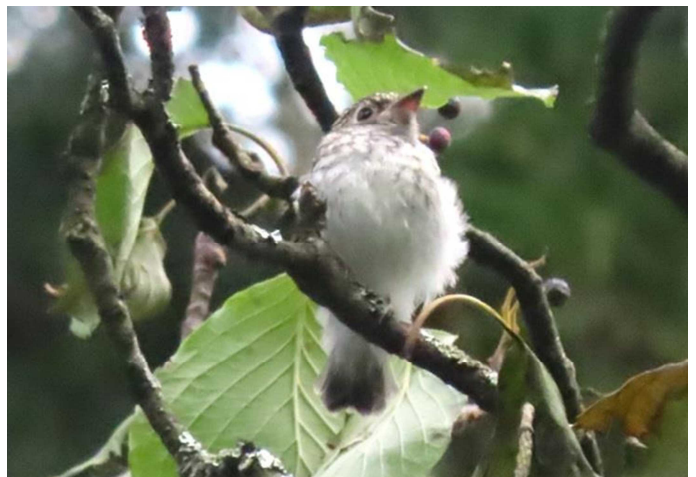
コサメビタキ

4月頃東南アジアなどから渡来し、5月～6月頃に営巣します。巣は、木のこぶそっくりなものを枝の途中や枝の股のあたりに作ります。こぶそっくりにするために、ウメノキゴケなどの地衣類を外側に貼り付けカモフラージュします。

コサメビタキは非常に闘争心があります。渡ってきた頃、自分のテリトリーを確保するため、キビタキなどのヒタキ類とよくケンカをしています。他にもコゲラ、メジロ、シジュウカラなど、テリトリーに入ってくる野鳥を次々排斥します。巣の近くにやってくるカケス（約33cm）にも急降下して突っ込みます。素早い動きでエサを探し、巣を守り、繁殖が終わる8月頃になると、秋の渡りに備えて栄養を蓄えます。



カモフラージュされた巣



巣だったばかりのコサメビタキ幼鳥

「レンゲショウマまつり」は令和8（2026）年で23回目となります。毎年7月中旬頃から9月上旬頃まで開催されます。

参考文献

田畑 伊織 かもしかの会東京 御岳山地域ニホンジカ生息調査 ～絶滅危惧種レンゲショウマの群生地を守るために～（2017）

（文責 荒井 悦子）